

（１）本年度のN I E活動の概要

本年度は、研究一年目で、「子どもたちが新聞に慣れ親しむ」というところから、そして、その中で教材として有効に活用できることを探っていくという方向で研究を進めた。子どもたちが新聞に触れる環境づくりに努めることや、普段の授業の中で「この場面なら新聞が使えるかな」というちょっとした発想を生かしてまず試みてみることを大事に、1年生から6年生まで各学年で実践を重ねた。

2学期後半になると、「初めは写真にしか目が向かなかった子どもが少しずつ文字を読むようになった」「『先生、これ、何て読むの？』」と聞いて来ることが多くなった」「授業が始まって新聞が教卓に用意されると、『やったー、今日は新聞だ』という反応があった」といった教師の声が聞かれるようになった。このことから、子どもたちにとって新聞が今まで以上に身近な学習材になってきていることがわかる。

授業実践を通して、新聞活用が「題材を集めること」「題材を選ぶこと」に大変有効であることが明らかになった。さらに、子どもが必要感を持って記事を選び、自分の考えを広げ、表現する力を高めていくための教材としてのあり方を探っていきたいと考える。

（２）本年度のN I E活動の取り組み状況（４月時点）

本校は、全校児童216人、11学級の小規模校である。

4月に実施した全国学力・学習状況調査の「新聞を読んでいますか」の質問で、「月に1～3回程度読んでいる」と回答した児童は県や全国平均と比べてやや多く、半分以上の児童が月に数回以上は新聞を読んでいるという結果であった。また、学校内で日常的に新聞に触れられる場は、児童昇降口の『毎日小学生新聞』、図書館の『毎日小学生新聞』『読売k o d o m o新聞』で、写真や見出しに興味をもった児童は足を止めてよく見ている。学習での取り組みとしては、例年、4、5年生を中心に、信濃毎日新聞社の『出前授業』を受講し、新聞の読み方や作り方などを学んでいる。また、学級によっては、高学年を中心にドリルタイムや宿題などで信毎学習シートを活用している状況である。

（３）N I E活動で育てたい力

① 全校研究テーマ

「友と考え、共に高め合う子を育てるための指導はどうあったらよいか」 ～新聞活用を通して～

② 研究の方向

- ・教育活動のさまざまな場面で新聞活用の実践を積む。
- ・児童が新聞に興味を持ち、親しむための環境や授業のあり方を探る。

③ めざす児童の姿

- ・もっとよくなろう、わかろうと主体的・意欲的に取り組む子ども
- ・相手の立場になって考えたり、相手の気持ちを受け止めたりし、共に高まろうとする子ども

も

- ・自分の考えや思いを表現し、考えが深まることに喜びを持てる子ども

(4) 全校での取り組み

① 環境づくり

ア 新聞閲覧コーナーの設置

まずは児童に新聞に親しんでもらうために、児童が毎日階段を上ってくる所に棚や長机を設置し、そこに7社の新聞を置いていつでも新聞を見られるようにした。たくさんの種類の新聞が並べられ、普段はなかなか新聞を読むことが少ない児童も、朝や休み時間に足を止めて新聞を読んだり、7社の新聞を読み比べたりする姿が見られるようになった。



イ 新聞記事の紹介コーナー

自分が見つけたおすすめの記事やお気に入りの記事をみんなに紹介するコーナーを設置した。はさみとのりをその場に置いておくことで、紹介したい記事を見つけたらすぐに切って貼れるようにした。スポーツや海外のニュース、地元の出来事など、その時の話題の記事がたくさん貼られ、紹介コーナーを通りかかった児童も楽しんで見ている。また、紹介された記事を他の新聞からも探してみようと、新聞を手にする児童も見られた。

そのほかにも、新聞から「秋」や「冬」にちなんだ記事や写真を見つけて紹介するコーナーも作った。

植物や動物、自然に関わる記事や写真、各地域に伝わる行事などを掲示することで、児童も新聞を身近に感じることができた。

② 授業実践

ア 2年生 国語 「夏がいっぱい！新聞をつくろう」

【ねらい】

『夏がいっぱい！新聞』の記事を書く場面で、写真カードを友だちと見合い、選んだ理由を話し合うことを通して、経験を想起しながら読む人がよくわかるように詳しく文を書くことができる。

【成果と課題】

- ・新聞から夏らしい写真を集める活動において、自然に友だちと新聞を囲み、会話が生まれる様子が見られた。友だちとのやりとりの中で、夏の出来事を想起したり、写真から感じることを言語で表現したりすることができた。

- ・自分の記事に適した題名をつけたことは、夏の季節に関わる言葉に親しみ、言葉を豊かにすることにつながったと考える。

- ・一枚の写真から、自分の経験を重ねて文章に表すというのは2年生には難しかった。「くわしく文を書く」ところまでねらうには、不十分な教材だったと考える。



イ 3年生 国語 「短歌を楽しもう」

【ねらい】

新聞記事で作った短歌を読み合うことを通して、言葉には考えや気持ちを表す言葉があることに気づき、友だちの短歌を楽しむ。

【成果と課題】

・写真だけでなく新聞記事からも短歌の言葉を選ばせることで子どものイメージを膨らませることができた。また、既知の単語だけでなく知らない単語も使うことで語彙も増えた様子であり、新聞を使ったことは有効であった。



・同じような写真でも児童の感じ方に違いがあり、詠む歌も違った。それをあえて取り上げ、児童に「なぜ違う詠み方をしたのか」と問うことで読み手の気持ちや情景を思い浮かべることができた。

・選んだ言葉を並べるだけで短歌を作ってしまう児童がいた。選んだ言葉から、考えたことやイメージしたことを文に表せる手立ても必要だった。

ウ 4年生 総合 「新聞アルバムを作ろう」

【ねらい】

自分でテーマを決め、そのテーマに合った記事を選んで切って貼る活動を通して、新聞に興味を持ち、選んだ記事を自分の生活と結びつけたり社会に興味を持ったりすることができる。



【成果と課題】

・スポーツや植物、動物など自分の好きなテーマを選んだことで、写真から記事を見つけていくことができ、今まであまり新聞を読んでいなかった児童も楽しんで活動することができた。

・災害や事件などをテーマにした児童は、写真だけでなく、記事の中身までしっかりと読んだり、複数の新聞を読み比べたりする姿が見られた。

・選んだ記事の感想を書くことで、例えば災害で被害にあった地域の方に思いを寄せ、「早く元気になってほしい」や、ボランティアの方の記事を読んで「ぼくも人の役に立つことをしたい」など、記事の内容を自分のこととして捉えられる児童も出てきた。

・自分で決めたテーマに合う記事を見つけることができず、テーマを何回も変えてしまったり、友だちと同じテーマにしてしまったりする児童が見られた。もっと新聞を読む時間をとったり、日常の生活やニュースなどを見て気になることをお互いに話し合ったりする時間を作るなども大切だと感じた。

エ 6年生 国語 「未来がよりよくあるために」

【ねらい】

よりよい未来をめぐる自分の意見文を書くために現在の社会や私たちの周りの様子についての情報を集める場面で、新聞から、よさを残していきたいことや変えていきたいことの記事を探し、選んだ記事を友だちと分類することを通して、現在社会で起きていることを知り興味を持つことができる。

【成果と課題】

・はじめは記事を選べない児童もいたが、何人かの友だちが選んだ記事を紹介することによって見通しが持て、新聞記事を真剣に探し、選ぶことができた。

・意見文に書きたいことが決まっていてその記事を探す人、ニュース等で耳にしていたことの記事を集めた人、自分の生活に関係する記事を見つけた人、記事のスペースの多さから今話題になっていることに興味が向いていった人など、それぞれの選び方だったが、社

会や身の回りのことを知っていった姿であり、新聞を活用したことが有効だったと思われる。

・記事を選びテーマも決まったが、意見文を書く段階になって何を書いたらよいか自分の考えがはっきりしない児童もいた。自分で選んだ記事について、なぜそれを選んだのかその気持ちを伝え合う機会を十分にとればよかった。記事を選んだ理由を友だちと伝え合うことが、自分の主張をはっきりさせていくことにつながるのではないかと思う。



オ 1年生 図工 「しんぶんしとなかよし」

【ねらい】

新聞紙にあまりなじみのない子どもたちが、新聞紙を使ってできそうなことを考えたり、友だちと新聞紙の使い方を教え合ったりすることを通して、新聞紙でできることに気づき、体全体を働かせてやぶいたり丸めたりつないだりして活動することができる。



【成果と課題】

・写真や広告に着目して切り抜いたり、スポーツの記事などを話題に話したりする姿が見られた。今まであまり新聞の中身を見てきていない児童にとって、新聞への親しみをもつためには有効であった。また、新聞紙の感触や破くときの感じ、多様な加工性などを楽しみながら活動する姿が見られた。

・図工や体育などで新聞を使うことがN I Eの目的につながるのか疑問もあったが、小学校1年生段階で、新聞に親しむという点では、ある程度の意味があると思われる。

・子どもたちの活動の様子を見てみると、1年生でも、写真や大きな見出しなどを中心に、切り抜いてテーマをもって貼り付ける活動などもできそうだと感じた。

(5) 公開研究授業

①小単元名 「情報産業とわたしたちの暮らし」

②小単元展開の概要

時	学習問題 ○学習活動・予想される児童の反応 ☆まとめ
1	わたしたちは、どのような情報に囲まれて生活しているのだろうか ○自分たちの身の回りにどのような情報やそれを伝える方法があるのか話し合う。 ・インターネット ・テレビ ・ラジオ ・新聞 ・雑誌など ○メディアの特徴について話し合ったり、調べたりする。 ・新聞は文字で伝えている。持ち運べて保存もしやすい。 ・インターネットは文字や映像で伝える。知りたい時に知れる。など →それぞれ伝え方も違うし、良さも違う。 ○生活の中のメディアと情報の活用について考えまとめる。 ・調べ物はインターネットを使う。・家の人は新聞をよく読んでいる。など ☆わたしたちはさまざまな情報に囲まれて生活しており、情報は無くってはならないものになっている。 その情報はさまざまなメディアから伝えられている。 大単元のめあて「わたしたちの生活の中で、情報はどのような役わりを果たしているのだろうか」

	を設定する。
2	放送局では、東日本大震災の情報をどのようにして伝えたのだろうか ○大震災が発生したとき、放送局がどのようにして情報を伝えたかを発表し合う。 ・津波から身の安全を守るように伝えた。・ラジオが一番早く避難の呼びかけをした。 ・テレビは特別番組で、現地からの映像を流した。 ○はやく正確に情報を伝えることができたわけを調べ、話し合う。 ・普段からの備えがあったから。 ・だれかのためにという強い気持ちがあったのではないか。 ☆放送局では、東日本大震災の情報ははやく正確に伝え、報道の使命を果たすようにした。
3	放送局ではどのような放送をしようとしているのかを考え、小単元の学習問題・計画を立てよう ○放送局では、被災地の情報をどのようにして伝えたのか確認する。 ・被害が大きかったところに臨時支局を開設した。（開設した意図を考えさせる） ・現地に足を運んで、番組作りに生かした。 ○情報を伝える人の工夫や願い、もっと調べてみたいことなどを考え、小単元を通した学習問題をつくる。 放送局ではどのようにして番組をつくり、わたしたちは放送局が伝える情報をどのように生かせばよいだろうか ○問題について予想を立てさせ、調べることなどの計画を立てる。 ・きっと番組作りは大変だろう→番組作りの工夫や努力 ・取材や放送するときにはどんなことを心がけているかな。→情報の生かし方など
4	放送局では、どのようにニュースを取材し、放送しているのだろうか ○テレビのニュース番組がどのようにしてつくられているか調べる。驚いたことを中心にあげていく。 ・情報収集から放送されるまでたくさんの項目があるな。 ・短い時間でわかりやすく伝える工夫をしている。・心がけがたくさんある。 ○緊急時に放送局で心がけていることを調べる。 ・より早く正確な情報を集める。・見ている人への心遣いがある。 ☆放送局では、ニュース番組を短い時間で正確にわかりやすく伝える工夫や、緊急時に現地からはやく正確に情報を伝える工夫を行っている。
5	本時
6	わたしたちはその情報をどのように生かしていくことがよいのか ○テレビにおける情報が自分たちにどのような影響をおよぼすか資料から考える。 ・プラスの影響もあるが、マイナスの影響もある。 ○情報を送る側・受け取る側にできることは大切なことは何か考える。 ・情報を送る側の考え方・受け取る側の判断の仕方が重要 ☆同じ情報を比較したり、冷静に判断したりする、見る側の正しい判断が重要である。
7	まとめ 放送局ではどのようにして番組をつくり、わたしたちは放送局が伝える情報をどのように生かせばよいだろうか の学習問題についてまとめ、発表する。

③本時の概要

ア 主眼

1日のテレビ番組編成の理由について考える場面で、新聞のテレビ欄を番組の種類で色分けしたり、番組編成者の話の資料を活用したりして、放送局ではテレビ番組を視聴者が見る時間帯に合わせて編成していることがわかる。

イ 本時の位置（全7時間中の第5時）

ウ 指導上の留意点

・必要に応じて色分けの項目を増やすことも視野に入れて活動を促すが、多岐にわたりにすぎないように、3色程度におさえる。

・各班に1日分のテレビ欄を配布し、一人につきチャンネルを一つ割り当てるようにする。

エ 展開

段階	学習活動	授業の様子（○教師の出　・児童の反応）
課題把握	①テレビ番組にはたくさん種類があることに気づき、問題をたてる。	○「テレビ番組にはどんな種類があるかな」 ・ニュース番組　・天気予報　・料理 ・バラエティ　・ドラマ　・スポーツ番組　・映画 ○これらのたくさんの番組のタイムスケジュールを決めることを『番組を編成する』と言います。 ・「どうやって編成しているのかな」という発言を受け、 学習問題：放送局では、どんなことを考えて番組の編成をしているのかを設定する。
	②予想を立て、本時の課題をつかむ。	・作っている人が「おもしろくしよう」と考えている。 ・テレビを見ている人がおもしろいと思うように。 ・見た人が、また見たいと思えるように。 ・人それぞれ見たいものが違うから、バランスよくつくろうと考えている。 ・夜は、家族でご飯を食べている時間だからおもしろいものにしようと考えている。 ・多くの年代の人が見られるものを、と考えている。 ○「みんなは、新聞のテレビ欄を見たことはありますか」 「今日は、テレビ欄を、情報を知る番組を黄色、楽しむ番組を赤色に色分けしたいと思います」と言い、 学習課題：新聞のテレビ欄を色分けして、テレビ番組の編成理由を考えようを設定する。
追究	③グループで番組ごとの色分けを行い、気づいたことを発表する。	・「とくダネ」って知る番組かな。 ・「ノンストップ」もニュース番組かな。 ・朝、ニュース番組が多いかな。 ・バラエティはやっぱり夜だな。 ○「一人分の番組欄をグループで並べて見てみよう」 ・おーすごい。並べてみると黄色の部分と赤色の部分がはっきりわかるね。

	④③の気づいたことについて、理由を考える。 ⑤提示資料からわかったことを話し合う。	○「わかったことを発表してください」 ・朝は、ニュースなどの知る番組が多い。 ・夜7時から楽しむ番組が多い。 ・午前中はニュース、午後は楽しむ、で半分に分かれている。 ○「本当に、朝ニュースが多いか見て見ようか。 あれ？黄色は夕方にもあるし、夜遅い時間にもあるよ。どうしてだと思う？」 ・ニュースは大事だから夜にもあると思う。 ○「大事ならずっとやってもいいと思うけど、ずっとやってないのはどうしてだと思う？」 ・昼間は買い物とかに行って夕方帰ってくるから。その人に合わせて見られるようにだと思う。 ・夜だと、家族がみんな帰って来て見られる。 ○「教科書の資料を見てみよう」 ・見る人の生活に合わせて番組を決めていることがわかった。 ・家族と一緒に楽しめる番組を考えていることがわかった。 ○「見る人のニーズに合わせて編成しているんだね」 ○「N」「天」の記号がいっぱいあることに気づいた人いますか。 ・いっぱいあるよ。 ○「どうしてだと思う？」 ・見る人が見逃してもいつでも見られるようにするため。 ・いろんな時間にやっているから、ニュースを速く伝えられる。
まとめ	⑥学習問題について、まとめ。	・放送局では、見る人のニーズに合わせて番組を編成していることがわかった。 ・見る人の生活に合わせて、短い時間にニュースや天気予報を放送したり、家族で見てもらえる時間帯などに楽しむ番組を放送したりしていることがわかった。



④成果と課題

・テレビ欄は、子どもにとって興味を持てる記事で、新聞に慣れ親しむ入り口としては有効な活用だった。

・番組の種類を「知る番組」「楽しむ番組」の2色で色分けしたことは、情報の整理・比較がしやすく、有効な手立てだった。ただ、分析するまでは時間的に難しかったので、別に時間をとって十分に話し合わせたい。そうすればより深い考察や気づきにつながったと考える。

・「N」と「天」のマークに気づかせる教師の出により、「いろいろな時間にやっているから速く伝えられる」という発言があった。『報道の使命』というところまで考えを広められたことがわかった。

〈N I E 推進協議会より〉

・テレビ欄は、“記事の見出し”＝「大事な情報」である。ニュース番組の時間的な配置だけ

でなく、その内容も変わっているところまで気づけると、ニーズが時間だけでなく、内容も含まれるようになる。

・「なぜ情報って必要なのだろう」「どんな情報を求めているのだろう」というニーズまで掘り下げて考えられるようになるとよい。番組名だけでなく、中身まで見ていくと気づけるかもしれない。そういう意味でテレビ欄を使ったことは大変よかった。

・子どもたちが生きている時代、生活が載っているから、教材として「テレビ欄」は大変よかった。また、一人1番組、色分け（視覚支援）という教材化も適切であった。比べたことから見えてくるものがあった。

・最後の“まとめ”は、自分の生活の中からの自分の言葉で書かせたい。そこでの表現力が情報活用能力ではないだろうか。

（６）まとめ

① 子どもの育ち

○新聞に慣れ、新聞が身近になった姿

新聞にはどんなことが載っているのか、文字（ひらがな・片仮名・習った漢字）、言葉、短歌や俳句などの作品、話題になっていること等々を知ることができ、また、知ることや探すことを楽しむことができた。

○友と関わりながら“材”に主体的、意欲的に向かう姿

新聞から自分の課題解決に必要な記事や写真を選ぶ子どもたちの様子はとても生き生きしていた。新聞には、活動量を保障するだけの十分な量があること、さまざまな情報が目に飛び込んでくる面白さ、興味や関心に対応できる内容を持つという魅力があったからだと考えられる。そして、一人が広げた新聞の周りに自然と人が集まり、会話が生まれ、友だち同士の関わりが見られる場面も多かった。そこでは、自分が必要としていた情報を膨らめたり、広げたりすることにつながる場合もあったと言える。

② 次年度に向けて

○校内環境作りの推進

・閲覧しやすい新聞の掲示を工夫する。

・気に入った記事をスクラップしたり、集めたりが自由にできるような場づくりをする。

○授業での有効活用

・子どもが、課題を解決するために必要感をもって記事を選べるようにする。

・記事を選ぶ時の視点や観点の明確化を図る。

・記事から考え、表現し、また記事を選ぶ、そしてまた考えるという学習サイクルによる深い学びを目指す。